

2 本年度学校教育の努力点とその推進計画

心と体を育む高田っ子

～できた！わかった！があふれる体育学習～

1 本校の実態

昨年度は、学校努力点目標を「心と体を育む高田っ子～できた！わかった！を味わう体育学習～」とし、体育学習において、児童が自分の課題に向かって主体的に学ぶことを通して、「できた！わかった！」という達成感や充実感を味わい、運動への意欲を高めることを目指して実践に取り組んだ。

課題別の練習の場の設定や、ICTの活用などにより、技能の高まりを実感させることができ、学校評価アンケートでは、「しっかりと運動している」と答えた児童の割合が、前年より12.9%増加した。

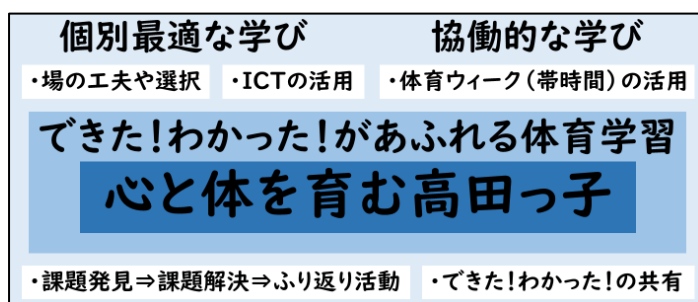
2. テーマ設定の理由

昨年度は、個別最適な学びと協働的な学びの二本柱で様々な手立てを講じ、意欲的に運動に取り組む児童を増やすことができた。今年度は、二本柱での実践を継続し、課題発見やふり返りの活動を一層充実させることで、より多くの、また、深い段階の「できた！わかった！」を味わわせることを目指し、体育学習や休み時間に意欲的に運動に取り組む児童を増やしたい。

3. 基本的な考え

心と体を育むには、運動を十分に経験（運動量・回数の保証）する中で、個々に運動の仕方を考えたり、練習の場を選択したりすることで、「できた！」や「わかった！」を多く味わうことが大切であると考え。また、学びをふり返り、できるようになったことや課題を明らかにすることで、より意欲的に運動に取り組めるようになると考える。〈個別最適な学び〉また、競い合ったり協力し合ったりする他者との関わり合いの機会は、運動する楽しさを味わう上で大切であると考え。自分の考えを言語化して伝えたり、他者と動きを比べたりすることで、新たな発見が得られると考える。〈協働的な学び〉

〈全体構造図〉



4. 具体的な手立て

単元全体や各授業で「何を身に付けさせたいか」を明確にし、教師が示す内容・個別に試行錯誤して習得させる内容・仲間と発見させる内容を考えたい。十分な運動量を確保しながらめあてに迫るために、手立てを工夫したい。

(1) 個別最適な学び

① 場の選択や工夫

個別の課題を解決するためには、様々な条件の場が必要になる。動きのこつをつかめるような場や、動きを比べられるような場を複数設定し、個々が選んだり工夫したりして練習できるようにしたい。

② ふり返し活動の充実

めあてや自己の課題に対して、どれぐらい技能を習得することができたかを言語化してふり返ることで、「できた！わかった！」を実感することができる。授業の最後では、課題がどこまで達成されたのか、残った課題は何かを明らかになるとよい。観点を絞って記述させたり選択させたりしてもよい。

③ ICT活用

ペアでお互いの動きを動画撮影し、手本の動きと見比べたり自分の過去の動きと見比べたりすることで、こつや課題を見付けることができる。また、器械運動などでは、学びを蓄積することによって、次学年以降の学習にも活用することも考えられる。

(2) 協働的な学び

① 学び合いタイム

考えを比べる、動きを確かめる、話し合う、まとめるなど、授業の途中や終末に意見交流し、自分の気付かない視点を得る時間である。試合をしているなら作戦タイムになり、個々の動きならばアドバイスタイムになる。終末ならば、ふり返りになる。

② ICT活用

多くの考えを短時間に共有することができる。また、再生速度を調整して見比べたり、写真や動画に直接意見を書き込んで保管したりすることもできる。

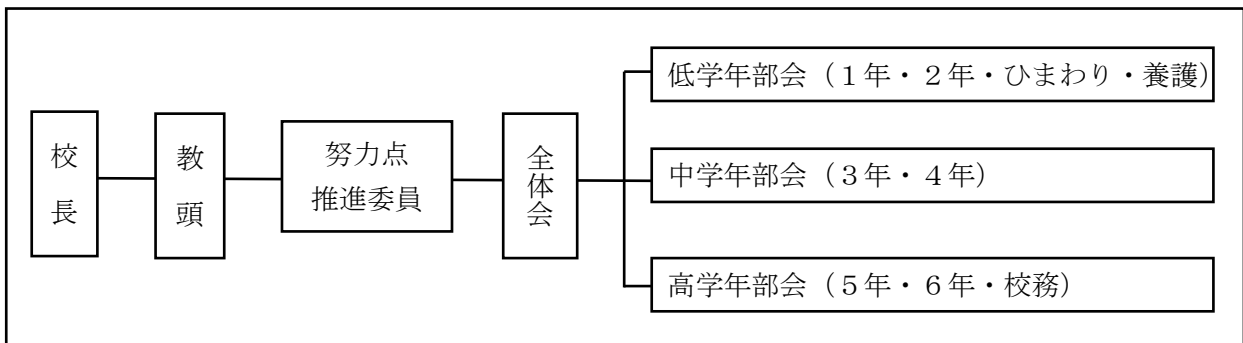
(3) 帯時間の活用（5～3月の初めの火・水・金の学習タイム）

授業で十分な運動量を確保するために、学習タイムを活用して課題を見付けたり、学びをふり返ったり、まとめたりできるとよい。低学年では、ICTの操作に慣れるための時間に充ててもよい。体育の学習とは別に、運動を楽しんだり体を動かす遊びを知ったりするために活用するのもよい。

5. 実践の進め方について

- (1) 学年で子どもの学びの様子について実態を把握する。
- (2) 努力点授業として一人1実践を部会内で公開する。その中から、全体授業者を決め、1学期（6月）と2学期（10月）に全体授業を1回ずつ公開し、全職員で検討する。
- (3) 実践後、指導・支援の内容を、子どもの学びの様子から分析し、成果・問題点を明確にする。
- (4) 実践報告会は年間2回。中間まとめ（9月）最終まとめ（2月）

6. 研究の組織



努力点推進委員会は、教務、校務、各学年の推進委員で構成する。

- (1) 公開授業（授業研究）は、各自が2月上旬までに1回実施する。
- (2) 実施期日は学年内で調整し、1学期と2・3学期に分けて行う。
- (3) 各部会と努力点主任で指導案の検討や授業研究後の協議
- (4) 同部会の授業は参観する。